

今月の経済動向（平成29年11月）

● 月例経済報告

<p>基調判断</p>	<p>(11月) 景気は、緩やかな回復基調が続いている。先行きについては、雇用・所得環境の改善が続かなかで、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待される。ただし、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。</p> <p>(10月) 景気は、緩やかな回復基調が続いている。先行きについては、雇用・所得環境の改善が続かなかで、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待される。ただし、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。</p>	
<p>個人消費</p>	<p>(11月) 緩やかに持ち直している。</p> <p>(10月) 緩やかに持ち直している。</p>	<p style="text-align: center;">消費総合指数と実質総雇用者所得</p>
<p>設備投資</p>	<p>(11月) 持ち直している。</p> <p>(10月) 持ち直している。</p>	<p style="text-align: center;">製造業・非製造業の設備投資（実質）</p>
<p>住宅建設</p>	<p>(11月) 横ばいとなっている。</p> <p>(10月) 横ばいとなっている。</p>	<p style="text-align: center;">住宅着工戸数（季節調整値）</p>
<p>雇用情勢</p>	<p>(11月) 改善している。</p> <p>(10月) 改善している。</p>	<p style="text-align: center;">雇用者数、就業者数の推移</p>

月例経済報告：内閣府

<p>生産</p>	<p>(11月) 持ち直している。</p>	<p>鉱工業生産・出荷・在庫・在庫率の推移 (2010年=100)</p> <p>このグラフは、2008年1月から2017年9月までの鉱工業生産、出荷、在庫、および在庫率の推移を示しています。左側の縦軸は生産と出荷（目盛右）を、右側の縦軸は在庫と在庫率（目盛右）を示しています。在庫率は2009年頃に急激に上昇し、その後徐々に回復しています。生産と出荷は2009年の急激な落ち込みを回復し、2017年9月の予測調査時点でも持ち直している傾向が見られます。</p>																								
<p>輸出</p>	<p>(11月) 持ち直している。</p>	<p>地域別輸出入数量指数 (2010年=100) ①輸出</p> <p>このグラフは、2008年1月から2017年9月までの地域別輸出入数量指数の推移を示しています。左側の縦軸は数量指数（2010年=100）を示しています。輸出は2009年の急激な落ち込みを回復し、2017年9月の予測調査時点でも持ち直している傾向が見られます。</p> <table border="1"> <tr> <td>アメリカ</td> <td>10月</td> <td>▲1.4%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3MA</td> <td>▲1.9%</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>10月</td> <td>+1.2%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3MA</td> <td>+0.6%</td> </tr> <tr> <td>アジア</td> <td>10月</td> <td>+4.1%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3MA</td> <td>+2.4%</td> </tr> <tr> <td>EU</td> <td>10月</td> <td>+5.1%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3MA</td> <td>▲0.4%</td> </tr> </table>	アメリカ	10月	▲1.4%		3MA	▲1.9%	全体	10月	+1.2%		3MA	+0.6%	アジア	10月	+4.1%		3MA	+2.4%	EU	10月	+5.1%		3MA	▲0.4%
アメリカ	10月	▲1.4%																								
	3MA	▲1.9%																								
全体	10月	+1.2%																								
	3MA	+0.6%																								
アジア	10月	+4.1%																								
	3MA	+2.4%																								
EU	10月	+5.1%																								
	3MA	▲0.4%																								
<p>国内企業物価</p>	<p>(11月) このところ緩やかに上昇している。</p>	<p>企業物価の推移 (2015年=100)</p> <p>このグラフは、2008年1月から2017年9月までの国内企業物価、輸入物価、および輸出物価の推移を示しています。左側の縦軸は国内企業物価（目盛右）を、右側の縦軸は輸入物価と輸出物価（目盛右）を示しています。国内企業物価は2009年の急激な落ち込みを回復し、2017年9月の予測調査時点でも緩やかに上昇している傾向が見られます。</p>																								
<p>消費者物価</p>	<p>(11月) 横ばいとなっている。</p>	<p>消費者物価の推移 (2015年=100)</p> <p>このグラフは、2010年1月から2017年9月までの消費者物価の推移を示しています。左側の縦軸は消費者物価（2015年=100）を示しています。消費者物価は2013年の急激な落ち込みを回復し、2017年9月の予測調査時点でも横ばいとなっている傾向が見られます。</p>																								
<p>海外経済</p>	<p>(11月) 世界の景気は、緩やかに回復している。先行きについては、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、中国をはじめアジア新興国等の経済の先行き、政策に関する不確実性による影響、金融資本市場の変動の影響等について留意する必要がある。</p>	<p>(10月) 世界の景気は、緩やかに回復している。先行きについては、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、中国をはじめアジア新興国等の経済の先行き、政策に関する不確実性による影響、金融資本市場の変動の影響等について留意する必要がある。</p>																								

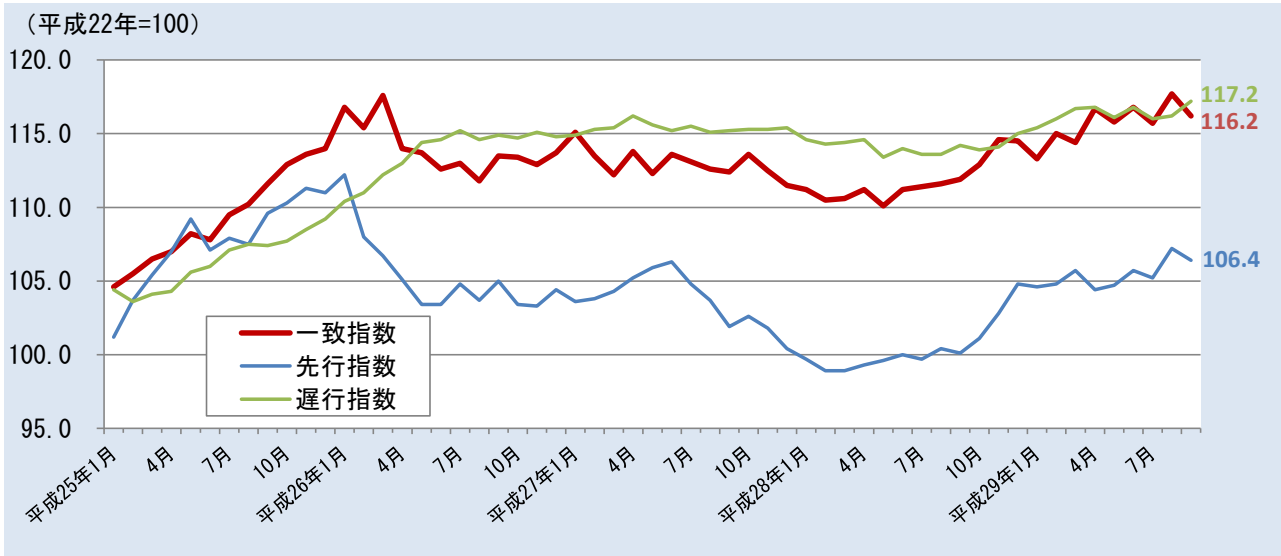
[月例経済報告：内閣府](#)

● 景気動向指数（平成29年9月・改訂値）

平成29年9月のCI一致指数（改訂値）は前月より1.5ポイント低い116.2ポイントとなった。
 CI先行指数は前月より0.8ポイント低い106.4ポイント、遅行指数は前月より1.0ポイント高い117.2ポイントとなった。
 景気の基調判断（CI一致指数）は、「改善を示している」を据え置いた。

※遅行指数は算出に用いるデータが一部遡及改訂されたため、平成29年4月以降の値が遡及改訂された。
 このため、前月との比較は改訂後の数値で比較しており、前月発表された数値との比較ではないことに注意。

・CIの推移



[景気動向指数：内閣府](#)